

# きんもくせい

病院だより

vol.109

令和4年  
7月号

## この地域のために、次世代の医療のために 日本トップクラスの臨床研修病院へ



▲ 今年度、当院に入職した16人の研修医・研修歯科医

「臨床研修病院」という言葉を聞いたことがありますか？「臨床研修病院」とは、医学部を卒業し、医師免許を取得した医師が基本的な手技や知識を身につけるため、2年間の初期臨床研修を行う病院のことです。

当院は、「日本トップクラスの臨床研修病院を目指す」をスローガンに、研修医の確保と研修医教育の充実に向けて、医師や看護師はもちろんのこと病院全体で取り組んでいます。

「よい教育なくして、よい医師育たず」「よい医師なくして、よい診療できず」「よい診療できずして、よい教育できず」これは宮地院長が常々口にして言っている言葉です。つまり、中東遠地域のような医師不足の地域の病院が成長するためには、まず教育が重要ということです。当院は病院を挙げて教育に力をいれることで、全国の医学生にとっての人気病院に成長しており、優秀な研修医が集まっています。

そして、今年度は新たに16人の研修医・研修歯科医が当院で医師としてのスタートを切りました。これからのこの地域の医療のためには若いチカラが必要です。地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 新規採用 研修医・研修歯科医 ご紹介します

研修医 ……………

①～⑧後列(左から)  
⑨～⑮前列(左端、左3番目から)

研修歯科医 ……………

⑯前列(左2番目)



1

きたざわ けんたろう  
**北澤 謙太郎**

名古屋の大学に通っていました。今回初めて静岡県に住みますが、すでにたくさんの方々の温かさに触れることができ、この地で働けることを嬉しく感じております。皆さまの健康のため、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

9

いいむろ けいた  
**飯室 敬太**

静岡市出身です。生まれ育った静岡県で働くことができ、とても嬉しく思います。この地域の医療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

2

うちだ めいた  
**内田 明太**

栃木の大学を卒業し、地元静岡に戻ってきました。地元の医療に携わることができ、大変嬉しく思います。早く皆さまのお力になれるよう日々精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

10

のむら かよ  
**野村 佳世**

愛知県出身で静岡県には初めて住みます。この地域で働くことができ、大変嬉しく思います。まだまだ未熟ですが、皆さまのお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

3

やまざき ひろや  
**山崎 寛也**

浜松市出身です。北海道での大学生活を経て、6年ぶりに静岡県に帰ってきました。自分の育った静岡県で働けることを嬉しく思います。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

11

たかはし なお  
**高橋 奈生**

25年間浜松で育ちました。愛する静岡県のために、精一杯、誠心誠意、一生懸命頑張らせていただきます。趣味は浜名湖でセーリングをすることとボルダリングをすることです。この地域の食や観光など、たくさん楽しみたいと思っています。

4

もちづき しゅんすけ  
**望月 駿佑**

富士宮市出身です。大阪での大学生活を経て出身地である静岡県で働くことを非常に嬉しく思います。まだまだ未熟者ではございますが、精一杯精進してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

12

おおはし かよこ  
**大橋 佳代子**

浜松市出身です。大学6年間は県外で過ごしましたが、初期研修医として戻ってまいりました。久しぶりに耳にする遠州弁に、どこかほっとしています。未熟者ではありますが、将来、この地域に貢献できるよう日々精進いたします。何卒よろしくお願いいたします。

5

こやま ともひさ  
**小山 智久**

はじめまして。東京から心機一転、静岡へ越してきました。人柄が温かなこの中東遠地域で働けることを嬉しく思います。早く皆さまのお役に立てるように、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

13

いしだ まち  
**石田 万智**

静岡市出身です。東京で6年間過ごし、静岡県に戻ってまいりました。中東遠地域の医療に貢献できるよう精進します。よろしくお願いいたします。

6

むらばやし なおき  
**村林 直樹**

沖縄の琉球大学を卒業し、静岡へ越してきました。医師として中東遠地域の皆さまのお力になれば幸いです。2年間、よろしくお願いいたします。

14

なかや みほこ  
**中屋 海帆子**

はじめまして。神奈川県出身です。大学時代を浜松で過ごし、静岡県の方の温かい人柄に惹かれました。中東遠地域は初めてなので、お茶を嗜んでみたいです。地域の皆さまのお役に立てるよう、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

7

ないとう たかゆき  
**内藤 隆行**

掛川市出身です。生まれ育ったこの地の医療に携わることができ、大変嬉しく思います。2年間で多くのことを学び、少しでも皆さまのお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

15

はせがわ ななほ  
**長谷川 七穂**

磐田市出身です。大好きな静岡県で医師としてのスタートを切ることができ、とても嬉しく思います。早くこの地域の皆さまのお役に立てるよう、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

8

せお りゅうせい  
**妹尾 隆星**

千葉県出身です。静岡県に住むのは初めてです。この地域の特色、魅力、おいしい食べ物を探しながら、中東遠地域での生活を楽しまたいと思います。たくさん経験を積み、正しく医療を学び、多くの方のお役に立ちたいです。よろしくお願いいたします。

16

にわ しょうたろう  
**丹羽 翔太郎**

岐阜県出身です。人生で初めて一人暮らしをすることになりました。今後、もっと静岡県のことを知りたいので、いろいろ話しかけてもらえると嬉しいです。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

# 日本トップクラスの臨床研修病院を目指します

## 医師になるために

「研修医」という言葉を聞いたことがある方は多いと思います。当院でも現在29人の研修医が活躍しています。

医師になるためには、6年制大学の医学部医学科を卒業する必要があります。基本的には、1・2年生で医学以外の幅広い教養科目、2・3年生で解剖学や法医学などの基礎医学、3・4年生で内科や外科、小児科、産婦人科などの臨床医学を学びます。その後、4～6年生で大学病院や総合病院の診療科で実習を行い、診察の基本や診療手技等を修得します。6年間で規定の単位を修得した医学生は、毎年2月に実施される医師国家試験を受験し、合格すれば医師免許を手にすることができます。

## 医学生の就職活動

医学生にも就職活動があります。大学医学部を卒業した医学生は、医師国家試験に合格した後、臨床研修病院で2年間の研修を行います。これが「研修医」と呼ばれる期間です。医学生がどこの病院で研修を行うかは、医学生自身が全国の臨床研修病院の中から自由に選択することができます。医学生それぞれが、合同説明会に参加したり、病院見学をしたり、いわゆる就職活動をして研修する病院を決めていきます。当院では開院以降、研修医教育の充実を重点目標として取り組んでおり、病院見学や実習に来る医学生の数は、年々右肩上がり増加しています。その数は、静岡県内のみならず東海地方の病院の中でも上位となっており、医学生にとっての人気病院に成長しています。平成25年の開院時には8人だった研修医の数は、現在29人まで増加しました。



◀研修医と看護師が採血の練習をしている様子

## 全国15位! 当院の優秀な研修医

研修医の2年間では、内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、救急科など様々な診療科をローテーションし研修を行うほか、救急の現場では診療のチカラとなり活躍しています。日々、多くの患者さまが搬送される救急の現場において、上級医だけですべてを対応するには限界があります。まず研修医が問診や必要な検査等を行い、適宜、上級医に相談し対応を依頼します。研修医が行った診療行為はすべて上級医がチェックします。こうすることで、多くの患者さまに対して、迅速かつ機能的に必要な診療を行うことができます。研修医にとっても、救急の現場は様々な症例の患者さまが搬送されるため、的確かつ迅速な判断を身につける貴重な研修の場になっています。

研修医の教育には、病院全体で取り組んでいます。多くの診療科の上級医が協力して実施している当院独自の研修医到達度試験や様々な勉強会、研修会など、研修医にとって学びの多い環境を整えています。その結果、当院で働く研修医は、令和3年度に実施された全国規模の研修医対象の能力評価試験で、参加病院642病院中15位という成績を残しました。全国的に見ても極めて優秀な研修医に成長していることがわかります。

## これからの医療のために

それにしても、なぜこんなに研修医教育に力を入れているのだろう?と思う方もいるでしょう。人口当たりの医師数が全国的に少ない静岡県の中でも、中東遠地域は最も医師が少ない地域です。それだけに、研修医はなくてはならない存在なのです。

当院で育った研修医が、この地域で医師として働き、この地域の医療を守ってくれることを願い、研修医を育てています。今後も“日本トップクラスの臨床研修病院”を目指し、この地域の医療のため、次世代の医療のため、地域の皆さまのご協力のもと、今後の医療を担う若いチカラを育ててまいります。

中東遠地域は次世代の医療を担う若いチカラを必要としています。病院だより「きんもくせい」の臨時号では、静岡県の医療の現状や当院で働く職種の紹介をしています。病院ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



▲ 詳細はこちら

# 看護部通信

「ナースマン」

新人看護師に聞いてみました！

Q 看護師になろうと思ったきっかけは？

A 私が小学生の頃に母が入院したことがきっかけで、看護師という職業のことを知り、興味が湧きました。そのときからずっと夢は看護師になることでした。

Q 当院で働こうと思った理由は？

A コロナの影響で病院見学はできませんでした。しかし、知人の話を聞いたり病院ホームページの救命救急センターのページなどを見たりして、雰囲気の良いさそうな病院だと感じ、当院で働きたいと思いました。

Q 配属部署はどこですか？

A 救急病棟です。大学での実習で「救急が向いているのでは？」と指導者から言われたことがきっかけで、救急分野に興味を持ちました。仕事内容を調べていくうちに、「救急ってかっこいいな」と憧れを抱き、救急病棟への配属を希望しました。



▲導尿カテーテルの研修の様子

Q 実際に就職してみてどうですか？

A 学生のときとは違い、人の命を預かっているという実感が湧き、責任の重さを感じています。同期にも恵まれ、コミュニケーションを取って仲良く、お互いモチベーションを高め合いながら仕事ができそうです。

Q リフレッシュ方法はありますか？

A 毎日、湯がねに浸かるようにしています。完全に一人の時間なのでゆっくりできます。

Q どんな看護師になりたいですか？

A 救急の道を突き詰めたいと考えています。DMAT(災害派遣医療チーム)にも興味があり、地域に貢献できる看護師になりたいです。

Q 自分をPRしてください！

A フレンドリーな性格で、雰囲気作りが得意です。コミュニケーションを大切に、患者さまやご家族のどちらからも頼られる看護師を目指します。



▶今回インタビューした、救命救急センター・病棟 鈴木康太看護師

## お知らせ - information -

### 募集 2023年度採用職員募集

職種	採用人数	申込締切日	試験日	採用日
理学療法士	5人程度	7月13日(水)	7月22日(金)	2023年4月1日 (経験者の方は応相談)
作業療法士	若干名			
言語聴覚士	若干名			

試験内容 作文試験、適性検査、面接試験

受付期間 2022年5月16日～7月13日

OUR PRIDE  
MAKE NEXT



◆詳細は当院ホームページをご覧ください。

### ● 医師異動のお知らせ ●

6月1日付 採用

消化器内科 なかほら ただひろ 名嘉原 忠博

よろしく申し上げます



5月の  
診療実績

1日あたりの患者数		
入院	387人	
外来	1,177人	
紹介率	79.5%	
逆紹介率	87.9%	
病床利用率	77.3%	
平均在院日数	10.1日	
手術件数	506件	
救命救急センター受診者数	1,364人	
救急搬送件数	459件	

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。  中東遠

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555  
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL 0537-21-5555

